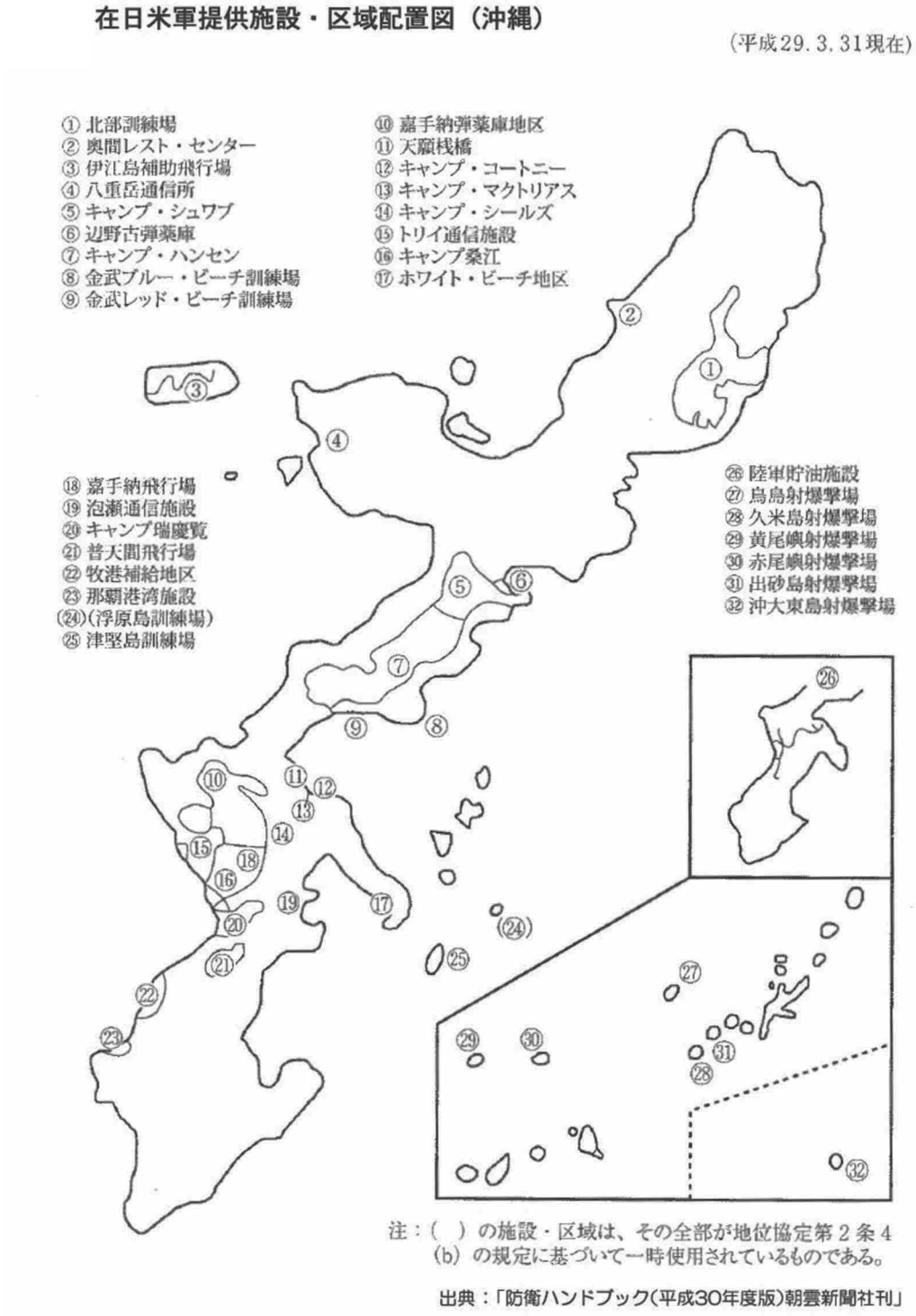
# ㉚ 沖縄の基地

その他

## ●沖縄の基地の現状

日本の国土の約 0.6%に過ぎない沖縄に、全国の米軍専用施設面積の約 70%が集中している。県土面積の約 8.2%、沖縄島では約 14.6%を米軍基地が占めている。このような米軍基地から、さまざまな環境問題が発生している。




沖縄の米軍及び自衛隊基地

沖縄県基地対策課．2019.8

参考資料

## ●数値で見る現状（2019 年 8 月末現在）

（1）米軍施設数　33 施設

（2）施設面積 18,709.9ha（沖縄県面積の 8.3 ％）

（3）専用施設面積　18,496.1ha（在日米軍専用施設の 70.3 ％）
沖縄県以外の日本には 7,823.0 ha

（4）軍人･軍属・家族数 48,340 人（2011 年 6 月末現在）　※2011 年 6 月以降非公表となっている。
軍人　26,883 人
軍属　1,994 人
家族　19,463 人

## ●基地が原因となる環境問題

米軍基地内の環境汚染は、日米地位協定によって施設を管理する権利を米軍が持っているため、基地内の環境調査などが困難な現状がある。米軍基地から派生する諸問題については、「県民の安全・安心」を 確保するために、国の責任において解決促進を図る必要がある。

沖縄県では、2017 年 3 月に「沖縄県米軍基地環境調査ガイドライン」を策定し、米軍基地から派生する諸問題のうち、環境面からの問題解決に資するため、国、県及び関係市町村と役割分担し、技術的・制度的な対応のあり方を示し、国及び関係市町村等と連携した新たな環境保全の仕組みの構築を目指している。

### （1）水質・土壌汚染

2012 年度に発生した油流出等事故は 6 件であり、油圧オイル、戦闘機燃料、ディーゼル燃料、古い燃料、汚水の流出、溢れがあった。

### （2）有害廃棄物

米軍基地返還跡地から様々な有害廃棄物が見つかっている。恩納村の米軍恩納通信所跡地からは PCB や水銀が、また北谷町の基地返還跡地からはドラム缶に入ったタール状物質が確認されている。2013 年 6 月 13 日に米軍嘉手納基地の返還跡地である沖縄市サッカー場工事現場からドラム缶 61 本が見つかり、DDT、PCB、ダイオキシン等の汚染が確認された。

### （3）航空機騒音

平成 30 年度の米軍飛行場周辺の航空機騒音は、環境基準の指標である Lden の最大値が、嘉手納飛行場周辺で 68dB、普天間飛行場周辺で 67dB となっており、嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺の 36 測定局中、10 局で環境基準を超過している。また、1 日あたりの騒音発生回数の最大値は、嘉手納飛行場周辺 56.6 回、普天間飛行場周辺で、31.4 回となっている。

### （3）赤土汚染

基地建設や軍事演習などによって出来た裸地や未舗装の演習用道路から、赤土が流出して河川海域を汚染している。

### （4）射撃訓練による汚染

鳥島は久米島の北方約 28km に位置し、島全体が演習場となっており、空対地射爆撃訓練が行われている。1995 年 12 月から 1996 年 1 月にかけて 3 回にわたり、米海兵隊のハリアー機が訓練中、計 1,520 発の劣化ウランを含有する徹甲焼夷弾を誤って使用していたことが判明している。

劣化ウランは、重金属としての毒性とウラン同位体から成る放射性物質としての影響があることから、周辺環境への影響を懸念する声が高まった。